

(平成26年度)

社会福祉法人 やおき福祉会

事業報告書

<目 次>

1. 法人基本方針に対して	3
2. 法人事業報告	3～6
3. 法人組織	7
4. 各事業所の事業報告	
(田辺市)	
① 紀南障害者地域生活支援センター	8～10
② やおき工房・かしのき	11～14
③ 陽だまり	15～16
④ ゆうあいホーム・すてっぷはうす・第2すてっぷはうす	17～21
⑤ 訪問介護支援センター	22～23
⑥ ハモニティー	24～27
⑦ 就業・生活支援センター	28～29
⑧ 地域活動支援センター	30～31
⑨ サンヒルズ・クローバー・オレンジ・ユースvii	32～33
(田辺市：中辺路・本宮)	
⑩ 古道ヶ丘・くまのこ作業所	34～37
⑪ こどうの家・第2こどうの家	38～39
(田辺市：龍神)	
⑫ 龍の里作業所・西出張所	40～42
(白浜町)	
⑬ かへむ	43～44
⑭ ほわいとホーム	45～46
(みなべ町)	
⑮ すまいる	47～50
⑯ みなべ鹿島ホーム・サンフラワー・浜市	51～53
(すさみ町)	
⑰ いなづみ作業所	54～56
(上富田町)	
⑱ 南紀の台ホーム	57～58

法人 事業報告

1. 基本方針に対して

平成26年度は、24年度から25年度にかけて施行された障害者総合支援法、障害者虐待防止法、障害者優先調達推進法、福祉サービス利用手続きの義務化（サービス等利用計画）など、矢継ぎ早に移り変わる制度への対応と、26年度において本格的に始まった「社会福祉法人改革」の議論などに適切に対処しながら、個別の福祉サービス事業において大きく変化している「福祉サービス」運営におけるやおき福祉会の将来像を構築し、法人の運営安定化を図っていくための在り方を考えていくことを「基本方針」に設定して取り組んできた。

概ね、方針どおりの視点、課題等については共有を図ることができたと考えられるが、具体的な内容については今後も様々なところで検討を重ねていく必要があるため、27年度において更なる検討をすすめ、具体的な中長期計画をつくっていききたい。

2. 事業報告

①実践

当事者主体の支援、支援環境の改善、総合的な支援、地域課題に対応する多職種との連携、保証人問題を含めた居住確保、一般就労支援の促進等を法人事業方針として実践を行った。

就労支援の充実を含め、利用者のステップアップ・選択が可能な総合的な援助を確保するとともに、各事業所において小規模、大規模の環境改善を図ることができた。居住確保においては、6月に南紀の台ホームを開所することができたが、保証人問題については、現制度以上の対応はできなかった。

このような中、ほぼ全事業所において、年度中の利用者が増えている傾向にあり一定のレベルで地域のニーズに対応することができたと考えられる。

②事業・運営

26年度は、所長会の機能充実、利用定員目標化、新制度の情報収集、すまいるの別棟、龍の里作業所の建築、鹿島ホームの物件変換、法人連携による新グループホームの設置、計画相談の体制確保、新会計基準への円滑な移行等を重点項目として取組みをすすめてきた。

25年度に機能変更を行った所長会議は、2年目に入って、議題設定、検討事項、情報共有が円滑化し、出席率も高まることによって、全体で法人を運営する視点が確保されてきている。個別の課題についても、所長会議により小委員会的な会議を別途設け、議論できるようになった。こうしたなか、利用者状況も1ヶ月ごとに出し合い、定員の目標化と連動する検討が図れるようになっていく。

前年度からの懸案であった龍の里作業所の新棟はJKAの助成を得て設置が完了し、すまいるの店舗においても町の助成を得て改修を行い、開設準備が整った。鹿島ホームの返還については、所有者の理解を得て円滑に変換でき、別地域への移転を図ることができた。

そのほか、計画相談支援（サービス等利用計画の作成の義務化）の経過措置最終年度として、全事業所において兼務相談員を配置し、ほぼ100%達成することができた。同じく経過期間最終年度であった「新会計基準」への移行も財務担当常務を中心にすすめ、混乱なく

27年度への移行が完了した。

法人連携による新グループホームの設置については、当年度では達成できず、多くの課題を踏まえ、更に検討を行っていく予定である。

③運動

国における法令・制度の動向への対応について、各種障害団体と連携した活動、後援会事業との協調、会員の充実、熊野地域「わろうだプロジェクト」との連携、新たな支援体系づくり、ジャーナル・ホームページを通じた広報等の充実を目標に活動を行った。

法令・制度に関しては現場視点から見ると、多くの課題があり、本年度も引き続き、各種の運動を行ってきた。制度改善においてはきょうされん全国署名の実施協力・活動参加、

地域課題においては、県への要望、市町への要望等を実施し、利用者にとってより良い支援が受けられるしくみづくりに取り組んだ。結果としては、国の福祉サービス制度の改善はなかなか遠かったが、和歌山県（精神科医療対策）、田辺市（建築助成）、みなべ町（改修助成）、白浜町（委託費増額、新規事業開拓）、すさみ町（改修助成）において、必要な対策や助成金を支給又は約束等を得ることができた。そのほか、国の措置による就業・生活支援センターの増額措置を得ることができた。

後援会活動においては、会員の継続等について活動を行うとともに、後援会主催の「チャリティーゴルフ」への参加などを行った。

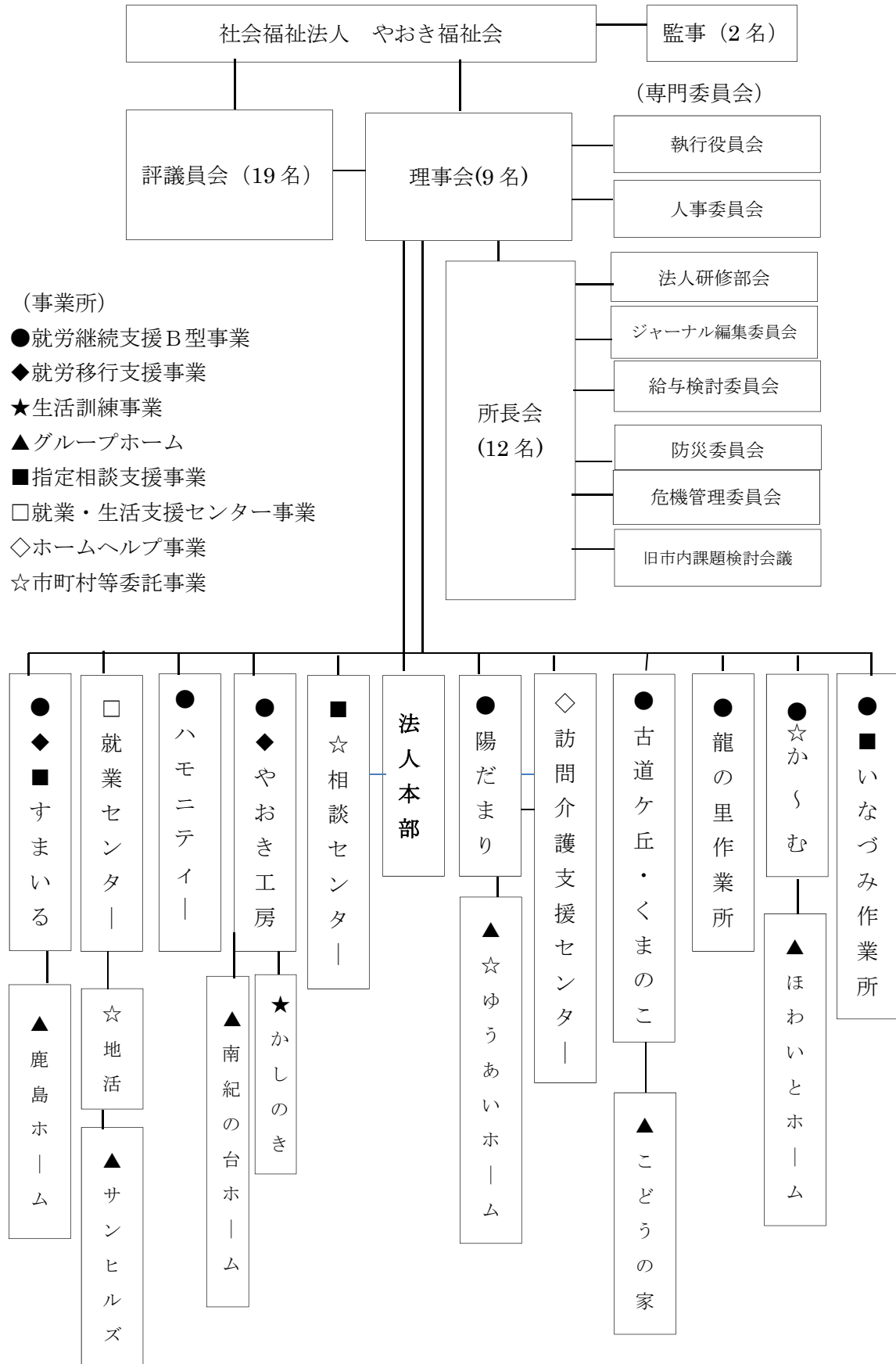
わろうだプロジェクトについては、北海道の山田クリニックへの視察招待を受け、学んで来るとともに、法人としても連携意識を強めることができた。ジャーナルの発行に関しては法人編集委員会と業者の連携により、質を担保した発行ができた。

4. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4月	01日 辞令交付式・10年勤続表彰式 08日 執行役員会 22日 理事長事業所訪問 24日 人事委員会 25日 理事長事業所訪問 〃 すさみ町長との懇談 30日 執行役員会	
5月	13日 執行役員会 17日 監事監査（会計等） 20日 監事監査（処遇） 24日 評議員会・理事会（決算・事業報告）	
6月	12日 執行役員会	4～5日 社会福祉法人改革セミナー 26日 後援会総会 18～20日 北海道視察（所長4名参加） 26日 後援会総会 26日 やおきジャーナル64号発行
7月	08日 執行役員会 08日 龍の里建築工事入札指名業者選考委員会 22日 執行役員会 26日 評議員会・理事会（第1次補正）	06日 福祉人材バンク説明会参加 法人新人職員研修 （4回開催・社会資源・障害特性・精神障害・やおきの理念）
8月	05日 執行役員会 26日 〃	
9月	05日 龍の里新棟建築工事現地説明 09日 執行役員会 16日 龍の里新棟建築工事入札 30日 執行役員会	18日 やおきジャーナル65号発行 15日 法人研修（うつ病治療）
10月	03日 理事会 14日 執行役員会 25日 評議員会・理事会（第2次補正） 28日 執行役員会	
11月	04日 執行役員会 11日 人事委員会 25日 執行役員会 〃 人事委員会	07日 法人研修（社会保障制度）

	<p>26日 みなべ町長への要望</p> <p>27日 理事会</p>	
12月	<p>01日 法人内希望調査</p> <p>09日 執行役員会</p> <p>09日 ぼのぼの工房入札指名業者 選考委員会</p> <p>15日 人事委員会</p> <p>17日 天皇陛下御下賜金拝受伝達 式</p> <p>18～19日 次年度に向けた所長 ヒアリング</p> <p>24日 人事委員会</p>	<p>06日 法人職員交流会（ボーリング）</p> <p>12日 法人研修（相談支援）</p>
1月	<p>08日 人事委員会</p> <p>09日 ぼのぼの工房工事現地説明</p> <p>13日 執行役員会</p> <p>19日 理事長 田辺市長への挨拶・懇談</p> <p>22日 ぼのぼの工房改修工事入札</p> <p>23日 人事委員会</p> <p>23日 法人役員・所長新年会</p> <p>26日 みなべ町長への挨拶・懇談</p> <p>27日 執行役員会</p>	<p>02日 やおきジャーナル 66号発行</p>
2月	<p>06日 人事委員会</p> <p>10日 執行役員会</p> <p>21日 一般正職員任用試験</p> <p>24日 執行役員会</p> <p>28日 評議員会・理事会（第3次補正）</p>	<p>27日 法人研修（虐待防止伝達）</p>
3月	<p>06日 人事委員会</p> <p>10日 執行役員会</p> <p>21日 評議員会・理事会（当初予算・ 事業計画）</p> <p>24日 執行役員会</p>	<p>05日 海外からの視察（古道ヶ丘）</p> <p>12日 やおきジャーナル 67号発行</p>

5. 法人組織（26年度の組織及び実施事業）



各事業所 事業報告

指定相談支援事業 「紀南障害者地域生活支援センター」

1. 運営概況

平成 26 年度は、指定特定相談支援（計画相談）の経過措置最終年度であったことから、法人内外ともに、サービス等利用計画作成に力点をおいた活動を行った。そのほか、田辺市委託相談事業、白浜町委託相談事業を例年どおり実施するとともに、指定一般相談支援（地域移行支援・地域定着支援）を実施した。

また、地域課題に対応するため、自立支援協議会等との連携のもと、相談支援にかかる体制整備に努め、年度後半には、精神障害者長期入院患者地域移行促進事業、精神障害者夜間休日あんしんコール事業を和歌山県から受託して、地域に必要な支援体制の構築に努めた。

2. 事業報告

① 指定特定相談支援（計画相談支援）

平成 24 年に施行された計画相談（サービス等利用計画の作成）の経過措置最終年度であり、法人が運営する福祉サービス事業の利用者及び指定特定相談支援を実施していない他法人等の運営する事業所利用者に対し、サービス利用計画の作成を行った。

制度に脆弱性があり、質を担保する相談支援は難しく、サービスを利用するための手続き的な要素が強かった。また、西牟婁圏域は非常に広域であることから、相談センターと各事業所ごとに独自の兼務相談員を配置して、計 250 名のサービス利用計画を作成することができたが、ケアマネジメントの理念と広域をカバーする体制確保については、改善の課題が残った。

② 指定一般相談支援（地域相談支援）

精神科病院からの退院、入所施設からの地域移行を支援することを目的とした、地域移行支援と地域定着支援であるが、相談センターでは、精神科病院からの退院を主たる対象者として支援を行った。地域移行支援利用者 4 名（うち退院者 3 名）、地域定着支援利用者 2 名であったが、支援開始から退院までの期間は概ね 2～3 か月であった。

地域相談支援は、計画相談のような必須ではないため、給付額より支援量が上回る傾向にある本制度の特色から地域全体での制度利用は非常に少ない点が課題として残った。

③ 市町相談支援事業（委託相談支援）

田辺市及び白浜町から一般的な相談支援の委託を受け、地域生活等に関するあらゆる相談を実施した。それぞれの委託形態は以下のとおりである。

（田辺市）

- ・ 名称 田辺市障害児・者相談支援センター「ゆめふる」
- ・ 所在地 田辺市民総合センター 2 階

- ・運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会
- ・派 遣 やおきより専任相談支援専門員1名（常勤換算1名）
- ・実績等 年間相談支援件数 7, 017件（4法人合計）
（白浜町）
- ・名 称 白浜町障がい児・者相談支援室「ぼらんち」
- ・所在地 白浜町元教育委員会 2階
- ・運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会
- ・派 遣 やおきより兼務相談員2名（常勤換算0.62名）
- ・実績等 年間相談支援件数 3, 229件（2法人計）

④ 長期入院患者地域移行促進事業

精神科病院への長期入院が全国的な課題となっていることを受け、和歌山県においても本年1月より同事業が開始された。各圏域ごとに実施する事業で、西牟婁圏域では、やおき福祉会が受託し、病院との連携のもと、27年度にかけて長期に入院されている人が「退院したい」と思えるような働きかけを主眼として実施する。26年度においては、そうした活動を行うための連携等体制整備に努めてきた。

⑤ 夜間休日あんしんコール事業

医師不足問題により医療センターの24時間電話対応が、夜間及び旧祭日においては休止されることを受け、それを補うひとつの手段として、和歌山県が同事業を開設し、やおきが受託することとなった。医療センターでの相談は12月中旬に休止された後、事業の実施は1月以降であったため、一定の空白期間が生じ、又、通院患者のニーズをもとに登録制で実施することですすめたが、医療センターの相談がなくなったことによる大きな混乱はなく、登録が必要なニーズを持つ患者もわずかで、3月までに3名の登録に留まった。

3. 地域ネットワーク活動

① 西牟婁圏域自立支援協議会活動

西牟婁圏域自立支援協議会に参加し、他職種との連携により、地域の体制整備等に係る検討をすすめた。取り分け、やおきとしては地域移行部会の事務局を担い、精神障害者の地域医療と地域生活における諸課題に対し、啓発研修、事例検討、県への要望等を行った。その他、紀南こころの医療センターの「高齢者地域生活支援事業」に協力し、連携した退院を模索する相談支援を実施した。

② 田辺市委託相談支援事業所協議会（ゆめふる運営協議会）活動

ゆめふるのより良い運営を目的に、毎月、4法人で協議を行い、運営ガイドラインづくりをすすめた。

③ 医療・保健連携会議の設置

地域の精神科医療等の課題に関し、県から受託した夜間休日あんしんコール事業、長期入院患者地域移行促進事業の推進を目的に、医療・保健・福祉による連携会議を設置し、活動を

行うこととした。

④ 白浜町委託相談協議会（ぼらんち会議）活動

白浜町内の相談支援業務と職種の役割を明確にするため、官民協働指針を作成し、それに基づいた連携支援を行った。また、毎月、運営協議のための全体会議と事例検討のための相談員会議を実施した。

4. その他の活動

- ① 相談員の資質向上を目的として、ゆめふる・ぼらんちにおいて適時な課題を設定し、フォローアップ研修を実施した。（法人連携）また、他機関の主催する研修に参加した。
- ② 専門学校及び大学から、精神保健福祉士取得過程の学生を受け入れ「援助実習」を実施した。
- ③ 行政及び諸団体に委員等を派遣し、支援協力等を行った。

5. 行事報告

年月	業務・行事等
4月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援
5月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援
6月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援
7月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援
8月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援
9月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援
10月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援
11月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援
12月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援
1月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援、あんしんコール・長期入院患者事業、災害対策啓発研修
2月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援、あんしんコール・長期入院患者事業
3月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）地域移行支援、あんしんコール・長期入院患者事業、精神医療施策の充実を求める県への要望

6. 数値実績

項目	ゆめふる（4法人）	ぼらんち（2法人）	相談センター
職員数（常勤換算）	ゆめふる全体（7人） やおき派遣数（1人）	ぼらんち全体（2.24人） やおき派遣数（0.62人）	0.62人
総相談支援件数	7,017件（4法人）	3,229件（2法人）	969件

就労移行・就労継続B型・自立訓練（生活訓練）事業所 「やおき工房」

1. 運営概況

就労移行支援事業では、給食事業と職場実習を柱に就労支援を行った。給食事業においては、調理員の確保が困難な状況が続いたため、一時期は給食事業からの撤退も検討されたが、27年度以降も存続することとなった。

就労継続支援事業 B 型においては、所内作業や所外作業と作業種が多く、また、利用対象者像も多様化したり、送迎等も煩雑になったりと、職員が効率的に動けない状況が課題となってきた。そのため、年度終盤には作業種をスリム化し効率化できるよう検討した。

自立訓練（生活訓練）事業では、新規利用者の確保が難しく、当年度の新規利用者は 2 名であった。今年度で訓練期間を終える利用者が大半となったため、訓練終了後の日中活動場所の調整を行うと共に、自立訓練事業は廃止することとなった。それに伴い、就労継続支援事業 B 型の定員を増やし 24 名とし受け入れた。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労移行支援事業

- ・延べ 18 名の方が利用した。内、5 名の方が就職し、他法人の A 型事業所に移った方が 1 名、他法人の B 型事業所に移った方が 1 名であった。給食事業を柱に、就業センター等と連携した職場実習、所内作業等を通じて就労に向けての訓練を行った。
- ・発達障害の方が増えてきており、これまでの訓練のあり方を見直す必要も出てきている。今後は発達障害者支援センターポラリス等と連携を密にしながら支援を展開する必要がある。

就労継続支援事業 B 型

- ・延べ 30 名の方が利用した。退所した 8 名の内、2 名がやおき工房の就労移行に移り、陽だまり（B 型）が 1 名、他法人の A 型事業所が 2 名、自営業に移った方が 1 名、在宅が 2 名となった。
- ・柱の一つとなっていた菓子箱折りの単価が下がり、工賃確保が厳しくなった。そのため、営業活動を行い数種の新規内職を確保した。昨年度に比べて売り上げは 50 万円程度の減収となった。平均工賃はこれまで 1 万円以上を維持してきたが、今年度は 1 万円を割り込んだ。これについては半日通所や隔日通所者の増加による影響もあると思われる。
- ・もともと交通アクセスの悪い立地状況であったり路線バスの三栖・長野線の廃線もあり、自力通所が困難な利用者が増加し送迎の必要性が増してきた。そのため、増便したり半日通所の利用者を対象に昼便も出す等送迎が煩雑になってきている。
- ・利用者の高齢化が鮮明になってきている。今年度は介護保険の申請を行う利用者や実際に介護保険サービスの併用等が必要となった利用者も出てきた。
- ・現状の作業への従事が難しい利用者もおり、軽易でかかわりやすくある程度の収入も

確保できる作業の導入を検討し、梅干しの種抜き作業をかしのき作業棟で始めることになった。

②生活支援活動

自立訓練（生活訓練）事業

- ・今年度は延べ 9 名の方が利用した。SST をはじめ各種勉強会や調理実習・書道・ビッグアート・大漁旗製作・芸術鑑賞・大谷文化祭や舞台『ブッダ』での作品発表、メダカの飼育、作業所見学・体験等を行った。生活リズムが安定したり、コミュニケーションスキルが向上したり、通所回数や時間が大幅に増えたりという成果もあった。また、運転免許取得支援等の個別に必要な支援も行った。一人は普通自動車運転免許を取得できた。利用者層の多様化もあり、適した訓練プログラムの選定には難しさがあった。
- ・大半の利用者が 2 年目を迎え、期限終了後の日中活動先を模索していく年となった。また、事業の廃止によって全員が他の日中活動へ移行することとなった。移行先としては、やおき工房の B 型に移った方が 5 名、就労移行に移った方が 1 名、すまいる（就労移行）1 名、かへむ（B 型）1 名となった。

共通

- ・自治会活動をサポートしながら、季節行事やスポレク・一泊旅行等の活動を利用者主体で行えるよう支援した。
- ・必要に応じて受診同行や服薬管理、金銭管理、各種手続き等の支援を行った。
- ・南紀の台ホームのバックアップを行い必要な支援を行った。
- ・健康診断を実施し、利用者の健康に配慮した。
- ・保護者懇談会を実施する予定であったが開催できなかった。

③個別処遇関係

- ・個別支援計画を作成し、必要に応じて関係機関と連携し、家庭訪問等を実施し家族とも調整しながら支援を行った。
- ・必要に応じて、他法人や他施設と調整を行い、作業所やグループホームの利用調整等を行った。

3. 地域交流活動

- ・新春お餅つき交流会（1/17）を開催し、利用者や家族・近隣住民にも声かけし、絶好の交流機会となった。
- ・毎年恒例の大谷文化祭（3/8）では、作品発表やバザー出店・餅つき体験等、近隣住民と交流し有意義な機会となった。
- ・空の日フェスタや上富田町健康祭り等の地域バザーに参加した。

4. その他の活動

- ・はまゆう支援学校3年生を受け入れ就業体験を行った。
- ・紀南看護専門学校・熊野高等学校看護科の看護実習生の受け入れを行った。
- ・西牟婁自立支援協議会 就労支援部会に加盟し、国体プロジェクト等の活動を行った。

5. 行事報告

年月	行 事 等	備考
4月	花見（平草原）	
5月	スポレク（長野小学校・上富田スポーツセンター）	
6月	買物レク（イオンモール和歌山）	
7月	スポレク（市ノ瀬体育館）	
8月	BBQ（秋津川備長炭記念公園）	
9月	空の日フェスタ、スポレク（新庄総合公園）	
10月	一泊旅行（神戸・大阪）	
11月	上富田町健康祭り、ミニ運動会&バイキング、防災訓練	
12月		
1月	初詣&喫茶（闘鶏神社）、餅つき交流会、ボウリング交流会&新年会（ジストボウル田辺）、健康診断	
2月	芸術鑑賞（中辺路美術館）、映画鑑賞（ジストシネマ田辺）、観梅（岩代梅林）	
3月	大谷文化祭（大谷総合センター）、スポレク（大屋体育館）、防災訓練	

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援 B 型	
	26 年 4 月	27 年 3 月	26 年 4 月	27 年 3 月
定 員	10 人	10 人	20 人	20 人
実利用者数	11 人	10 人	25 人	22 人
1 日平均利用者数	9.5 人	7.6 人	17.7 人	16.7 人
職員常勤換算配置数	3.8 人	3.0 人	5.1 人	6.6 人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数	総稼働日数	休日開所日数
	262 日	40 日	250 日	9 日
授産科目及び授産収入	科 目	収 入 (円)	科 目	収 入 (円)
	給食事業	6,933,750 円	受託作業	1,599,400 円
	職場実習	546,098 円	内職作業	960,216 円
	受託作業	447,300 円	物品販売・バザー活動	260,870 円
	内職作業	448,966 円		
	物品販売・バザー活動	92,935 円		
	計	8,469,049 円	計	2,820,486 円
工賃実績 (一人当たり)	目 標 なし	実 績 20,772 円	目 標 12,000 円	実 績 9,621 円

事業種別	自立訓練 (生活訓練) 事業	
	26 年 4 月	27 年 3 月
定 員	6 人	6 人
実利用者数	8 人	6 人
1 日平均利用者数	5.4 人	4.2 人
職員常勤換算配置数	2.0 人	1.0 人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数
	243 日	3 日

就労継続B型事業所 「陽だまり」

1. 運営概況

平成26年度は2年前から県より指摘のあった、陽だまりとゆうあいホームの間に区切りを持たず為にフェンスを設置するようにとの事であったので、26年度末にフェンス設置の工事を行い、これによって県からの指摘事項の案件が解消された。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労希望のメンバーに対しては、やおき工房、ハモニティーを中心に法人内、外の事業所と連携して施設外での実習場所を増やし、メンバーがステップアップ出来るようにサポートを行った。

②生活支援活動

- ・挨拶の練習や着替え洗顔など ADL 向上に繋がるよう支援を行った。
- ・自力で出来る事が増えるように、通所支援（バス、自転車の練習）を行った。

③個別処遇関係

- ・個別支援計画を作成し、サービス利用者の課題や意向を確認し合い、定期的に見直しを図りながら支援を行った。
- ・利用者の日々の状態を把握し、必要な支援及び助言を行うと共に、生活相談も継続して行った。また、必要に応じて、医療機関受診同伴や、関係機関との連携を図った。

3. 地域交流活動

- ・積極的にボランティアの受け入れを行い、農作業のアドバイスや英会話のレクチャーを受ける事が出来た。

4. その他の活動

- ・集団が苦手なメンバーでも関われるようにと、農作業を取り入れキュウリ、茄子、トマト、ししとう、カボチャ、スイカ、枝豆、レタス、白菜、ほうれん草、じゃが芋など収穫する事が出来、多くのメンバーも農作業に参加する事が出来た。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	那智大社(日帰りレク)	
5月	新庄公園・モスバーガー(レク+外食)	
6月	和歌山イオンモール(日帰りレク)	
7月	七夕会(かき氷)・納涼会(素麺・巻き寿司)	
8月	丸長レストラン(外食) 大掃除	
9月	白浜ドライブ(レク)	
10月	パビリオンシティ(レク・買い物 or ボーリング)	
11月	南部ロイヤルホテル(日帰り旅行)	
12月	クリスマス会・大掃除	
1月	初詣・あゆみ食堂(外食)	
2月	みなべ梅林観梅・ビッグU&カラオケ(レク)	
3月	南部ドライブ(レク)	

6. 数値実績

事業種別	(例) 就労移行支援		(例) 就労継続支援B型	
定員			26年4月 20人	27年3月 20人
実利用者数			26年4月 28人	27年3月 29人
1日平均利用者数			26年4月 20人	27年3月 21.8人
職員常勤換算配置数	26年4月 人	27年3月 人	26年4月 5.8人	27年3月 5.8人
年間稼働日数	総稼働日数 日	休日開所日数 日	総稼働日数 250日	休日開所日数 11日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
	商品売上	555,170	自主製品売上	57,275
	農園売上	38,030		
	受託作業	2,003,108		
	雑収入	85,420		
	計			2,739,003
工賃実績(一人当たり)	当初目標 円	実績 円	当初目標 5,000円	実績 5,415円

グループホーム「ゆうあいホーム・すてっぷはうす・第2すてっぷはうす」

1. 運営概況

平成26年度はゆうあいホームの管轄下からほわいとホームが外れ、ほわいとホームはか〜むの管轄となり、それに伴ってゆうあいホームは専属の管理者は配置せずに、管理者1名がたきないエリア（ゆうあいホーム、すてっぷはうす、訪問介護支援センター、陽だまり）の管理業務を兼務する形で事業を行った。

また、陽だまりと同様に県より職住分離するように指摘あり、26年度末にフェンス工事を完了した事で、県からの指摘事項は解消された。

2. 事業報告

⑥ 生活支援活動

- ・定期的に SST（社会生活技能訓練）を行い、挨拶の大切さを再確認すると共に着替えや入浴など日常の生活能力を維持出来るように支援を行った。
- ・調理実習を定期的に行い、土日など休日の場合でも、コンビニで出来合いの弁当を買うばかりでなく、各自が少しでも自炊出来るように支援を行った。

⑦ 個別処遇関係

- ・高齢化及び重度化等で金銭管理や服薬管理等の個別のかかわりが必要な利用者が増加しており、26年度はゆうあいホーム、すてっぷはうす計25名の利用者の内、23名に対して金銭管理及び服薬管理の個別支援を行った。
- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。

3. 地域交流活動

- ・地域で行われたバザーに参加して、地域の方々との交流を行った。
- ・ボランティア事業を通して、地域の方との交流を行った。

4. ボランティア事業活動

I. 障害者当事者活動支援

(ア) プリザーブドフラワー教室

場 所：やおき福祉会 ゆうあいホーム

日 程：平成26年6月21日（土）13:30～15:30

講 師：辻内 紀子氏（花の玉手箱「花珠」代表）

参加人数：24名

経 費：95,838円

内 訳	金 額	内 容
講師謝金	16,707 円	2 名（講師+スタッフ）
消耗品費	76,000 円	材料費
印刷製本費	3,131 円	資料診察代

(イ) 麦の郷見学ツアー

場 所：麦の郷（和歌山市）

日 程：平成 26 年 12 月 19 日（金）

参加人数：18 人

経 費：10,885 円

内 訳	金 額	内 容
賃借料	4,505 円	福祉バスレンタル代
旅費交通費	2,060 円	高速料金
消 耗 品 費	4,320 円	手土産代

(ウ) 新年餅つき交流会

場 所：やおき工房（田辺市）

日 程：平成 27 年 1 月 17 日（水）

参加人数：50 人

経 費：27,571 円

内 訳	金 額	内 容
水道光熱費	8,111 円	ガス代他
消耗品費	17,960 円	材料費
印刷製本費	1,500 円	資料印刷代

(エ) ケーキ教室

場 所：SECESSION（田辺市）

日 程：平成 27 年 3 月 14 日（水）

参加人数：17 人

経 費：70,108 円

内 訳	金 額	内 容
消耗品費	68,000 円	材料費 4,000 円×17 人※講習料込
印刷製本費	2,000 円	資料印刷代
手数料	108 円	銀行手数料

小計 204,402 円

II. 障害者ボランティア育成

(ア) 障害者との地域啓発・体験交流会

①場 所：龍神村保健センター

日 程：平成 26 年 8 月 18 日（月）

講 師：山田秀世氏

内 容：家族が元気を取り戻すために「あるがまま」を学ぼう

参加人数：8 名

経 費：38,923 円

内 訳	金 額	内 容
雑費	33,411 円	講師謝金 30,000+源泉 3,411
旅費交通費	3,320 円	講師旅費
消耗品費	900 円	講師お茶代
消耗品費	1,292 円	材料費

②場 所：和歌山県立情報交流センター・ビッグ U 研修室 2

日 程：平成 26 年 9 月 15 日（月）

講 師：山田秀世氏

内 容：『うつ病治療の現在』

参加人数：86 名

経 費：60,461 円

内 訳	金 額	内 容
雑費	33,411 円	講師謝金 30,000+源泉 3,411
旅費交通費	10,000 円	講師旅費
賃借料	6,250 円	ビッグ U 会場使用料
印刷製本費	10,800 円	垂れ幕代

③場 所：和歌山県立情報交流センター・ビッグ U

日 程：平成 27 年 1 月 9 日（金）

講 師：上島安裕

内 容：『災害時のボランティア活動と障害への配慮』

参加人数：70 名

経 費：96,214 円

内 訳	金 額	内 容
雑費	22,274 円	講師謝金 20,000+源泉 2,274
雑費	2,000 円	講師土産代
旅費交通費	57,530 円	講師旅費
賃借料	4,410 円	ビッグ U 会場使用料
印刷製本費	10,000 円	配布資料代

小計.....195,598 円

III. 障害者ボランティア団体活動支援

(ア) 親子サークル「カンガとルー」活動支援

日 程：平成 26 年 7 月 15 日 (火)
平成 26 年 8 月 5 日 (火)
平成 26 年 9 月 9 日 (火)
平成 26 年 10 月 7 日 (火)
平成 26 年 11 月 11 日 (火)
平成 26 年 12 月 9 日 (火)
平成 27 年 1 月 13 日 (火)
平成 27 年 2 月 3 日 (火)
平成 27 年 2 月 24 日 (火)
平成 27 年 3 月 10 日 (火)

場 所：トモジャズダンススタジオ

講 師：廣田智子氏

内 容：ダンス教室

参加人数：延べ 107 名 (平均 10 人)

経 費：200,000 円

内 訳	金 額	内 容
講師謝金	100,000 円	10,000×10 回 (講師分)
講師謝金	50,000 円	5,000 円×10 回 (アシスタント分)
会場使用料	50,000 円	5,000 円×10 回

小計 200,000 円

合計 600,000 円

5. その他の活動

- ・陽だまりが行っている月一回のデイケア活動に利用者が参加して交流を行った。
- ・年一回の旅行としてホテル浦島に一泊旅行に行き、利用者間の親睦となった。

6. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	ドライブ	
5月	調理実習	
6月	生け花	
7月	バーベキュー	
8月	外食	
9月	防災訓練	
10月	SST	
11月	ソフトバレー大会	
12月	一泊旅行（勝浦温泉）、クリスマス会	
1月	初詣	
2月	調理実習	
3月	忘年会	

7. 数値実績

ホーム名	ゆうあいホーム		すてっぷはうす	
	26年4月	27年3月	26年4月	27年3月
定員	19人	19人	6人	6人
実利用者数	14人	19人	6人	6人
職員常勤換算配置数	6人	6人	1.5人	1.5人
年度中の入退所	入 所 退 所	5人 人	入 所 退 所	人 人
利用市町村内訳	田辺市	11人	田辺市	3人
	白浜町	1人	白浜町	人
	みなべ町	1人	みなべ町	2人
	上富田町	2人	上富田町	人
	すさみ町	1人	すさみ町	人
	その他	3人	その他	1人

居宅介護事業所 「訪問介護支援センター」

1. 運営概況

平成26年度も前年に引き続き、利用者数に対してヘルパー数が不足している状況であったので、ヘルパーを1名増員して慢性的に続いていたヘルパー不足を解消した。

また、利用者の中で従来の福祉サービス（身体介護、家事援助）以外に通院介助や移動支援を必要とするケース多数あり、計画相談に盛り込み事で行政からの支給量が増加し、事業全体を拡げる事が出来た。

2. 事業報告

①身体介護（居宅介護・訪問介護）

- 入浴介助…入浴の介助又は、入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- 食事介助…食事の介助を行った。
- 体位変換…体位の変換を行った。

②家事援助（居宅介護・訪問介護）

- 調理…利用者の食事の用意を行った。
- 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- 掃除…利用者の居室の掃除を行います。
- 買い物…利用者の日常生活に必要な物品の買い物を行った。

③通院介助（居宅介護）

- 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

④移動支援（居宅介護）

- 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

3. 個別処遇関係

- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。

4. 数値実績

施設名	訪問介護支援センター			
利用者数	26年4月 37人	27年3月 39人		
登録ヘルパー数	26年4月 6人	27年3月 7人		
年度中の入退所者	入 所	6人		
	退 所	2人		
	休 止 中	2人		
利用市町村内訳	田辺市	31人	田辺市	31人
	白浜町	6人	白浜町	6人
	みなべ町	2人	みなべ町	2人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	人	その他	人

就労継続B型事業所 「ハモニティー」

1. 運営概況

平成26年度ハモニティーは、定員20名、登録者27名でスタートする。1年間での新規利用者数は4名で、退所者数は3名であった。退所者3名のうち2名は一般就労に移行した。

年間を通しての延べ利用者数は5,084人、延べ開所日数が241日で1日平均利用者数は21.1名であった。

① 性別・年代別(平成27年3月末時点)

	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	合計
男	1	4	7	2	3	17名
女	1	2	3	3	1	10名
合計	2	6	10	5	4	27名

② 障害種別(手帳取得別)

障害名	利用者数
精神障害	23名
知的障害	4名

③ 利用実績(月別)

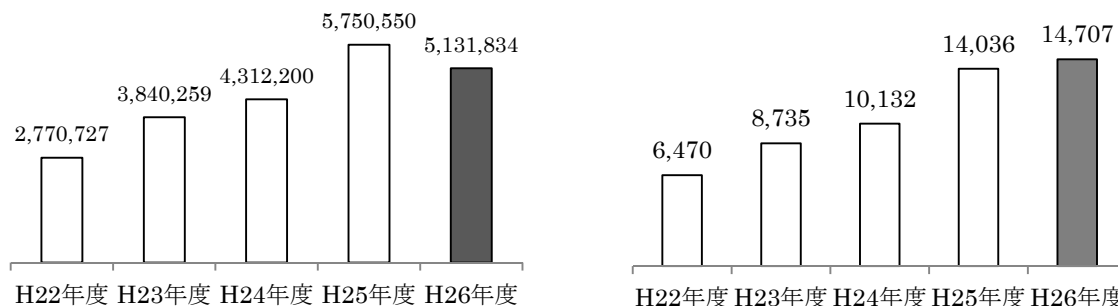
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	22.3	21.3	22.2	20.5	21.8	21.8	21.0	21.3	21.2	19.5	19.4	21.0
開所日数	21日	20日	21日	22日	17日	20日	22日	18日	19日	19日	20日	22日

(年間平均 21.1 人/月)

2. 事業報告

① 就労支援活動

- ・自主製品(八起焼)製造販売 ・印刷物受注販売 ・古紙、空き缶、古着回収
 - ・受託作業(箱折り、電子部品パレット入れ、新聞帯封、売店) ・職場実習 ・バザー
- (事業収入推移) (月額平均工賃推移)



② 生活支援活動

掃除や食器洗いなど、日常生活を送るうえで最低限必要とされるものについては、訓練としての位置づけで当番制において実施してきた。

自治会活動においては、週1回の頻度で、レクリエーションや学習会、茶話会などを実施し利用者同士の親睦や楽しみの機会を設けてきた。利用者の体力や健康維持の点では、ラジオ体操を日課とし、スポーツレクリエーションも定期的の実施してきた。

③個別処遇関係

利用者との定期的な面談や相談、日々の状態の把握に努め、自己実現に向けた個別支援計画の作成、確認を継続しておこない支援をおこなってきた。また、支援の方向性について、職員間で共有できるよう、週1回の職員会議や個別支援計画作成会議を定期的の実施してきた。

新規利用希望者については、市町村、ゆめふる、こころの医療センターと連携しながら、見学や体験利用の受け入れをおこなってきた。

平成26年度は、一般就労への移行者が3名おり、就労ニーズにも対応した支援を引き続き実施していく。

3. 地域交流活動

古紙等リサイクル事業を通し、多くの地域住民の方々に協力をいただくことができた。古着リサイクルでは、毎日のように地域の方が事業所を訪れてくれ、利用者との交流の機会ともなっている。

4. その他の活動

文里自主防災会主催の地域合同避難訓練に参加、非常災害に備える貴重な訓練の機会となった。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	3	お花見	動鳴気
	10	いちご狩り	みなべ まあと工房
	17	スポーツレク	大屋体育館
5	1	ドライブレク	白浜番所山公園、とれとれ市場
	8	買い物レク	パビシ、ユニクロ
	11	職員研修	相談支援従事者研修（廣島）
	12	職員研修	相談支援従事者研修（廣島）
	15	釣りレク	文里湾堤防
25	溝掃除	文里町内会	
6	5	外食レク	「和」メンバー19名
	12	釣りレク	芳養湾堤防
	19	スポレク	大屋体育館
7	3	茶話会	ホットケーキづくり
	17	ドライブレク	白浜水族館
	24	自治会学習会	田辺市まちづくりについて（田辺市企画広報課）
	31	海水浴レク	扇ヶ浜ビーチ
8	11	夕涼み会	駐車場にてバーベキュー（メンバー24名）
	21	レク（海水浴・釣り）	扇ヶ浜ビーチ・文里湾
9	4	外食レク	とれとれ亭
	11	ブドウ狩り	紀南観光ぶどう園

	15 18	職員研修 スポーツレク	うつ病治療について 大屋体育館
10	1 2 3 9 10 16	赤い羽根募金運動 カラオケレク わされん運動会 メンバー1泊旅行 メンバー1泊旅行 バッティングセンター	コーナン田辺店前 メロディーホール 白浜体育館(結果⇒優勝) 大阪神戸方面(利用者20名、職員5名) " 市ノ瀬バッティングセンター
11	6 6 7 13 16 18 19 20 27 27 28	買い物レク 県指導監査 職員研修 ソフトボール大会練習 生涯学習フェスティバル 安全運転管理者講習 わされんソフトボール大会 紅葉ドライブ 防災訓練 サービス管理責任者研修 "	パビシ、ユニクロ 和歌山県障害福祉課 社会保障制度について 文里グラウンド 市民総合センター 県公安委員会 たきないグラウンド(結果⇒優勝) 中辺路町滝尻方面 火災発生時の避難、初期消火訓練 就労コース(廣島) "
12	2 4 6 8 12 25	チャリティーゴルフコンペ ドライブレク 職員交流会 署名運動 職員研修 忘年会・クリスマス会	やおき後援会(参加賞に八起焼) みなべ梅振興館、もとや ポーリング大会 きょうされん国会請願(オーシティー) 相談支援について 和わにて外食・クリスマス会
1	5 8 9 15 16 22 29	初詣、消防出初式 買い物レク 職員研修 カラオケレク 職員研修 ポーリングレク 茶話会	鬮鷄神社、扇ヶ浜 パビシ、ユニクロ 災害時のボランティア活動と障害者への配慮 メロディーホール 和歌山ビッグI(パーソナリティー障害について) ジストボールたなべ ぜんざい、おしろこづくり
2	6 7 19 27	防災訓練 ふれあい文化祭 観梅 職員研修	町内会合同による津波避難訓練 土曜開所し参加、バザー実施(ハナヨアリーナ) みなべ梅林へ 障害者虐待防止・権利擁護研修
3	5 6 12 13 21	外食レク メンバー健康診断1班 買い物レク メンバー健康診断2班 保護者会	和わにてバイキング 白浜はまゆう病院 パビシ、ユニクロ 白浜はまゆう病院 保護者8名参加

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
定員	26年4月 20人	27年3月 20人
実利用者数	26年4月 27人	27年3月 27人
1日平均利用者数	26年4月 22.3人	27年3月 21.0人
職員常勤換算配置数	26年4月 4.8人	27年3月 4.8人
年間稼働日数	総稼働日数 241日	休日開所日数 1日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	受託作業	3,335,871
	印刷事業	913,882
	古紙等リサイクル事業	529,073
	製菓自主製品事業	256,346
	バザー等	96,662
	計	5,131,834円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 月額14,500円	実績 月額14,707円

障害者就業・生活支援センター事業「紀南障害者就業・生活支援センター」

1. 運営概況

田辺市及び西牟婁郡とみなべ町圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続けられる」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行ってきました。

2. 事業報告

事業の報告としては当初計画に沿って就業・生活支援を行ってきました。今年度は相談対象者が他府県からの移住者が3名おられたこと、その方々が計画性なく就職だけでなく金銭面でも困窮しておられ、生活基盤の安定からの支援を要することとなっています。当事者の意向としては「直ぐに働きたい」「生活が苦しい」とのことが主となり、当方としても当事者ニーズに答えるべく、本来の就職までの流れを変えての就職支援を試みました。しかし、こういった就職に関しては過去の経験そのまま、継続した就職には至っておりません。また、就職後数年経過後に企業側より不適應等での苦言があり、数日間のモニタリングより再支援を開始したケースや、就職希望はあるものの自己評価と周囲の評価の格段の差により未就労となっているケースなど一朝一夕では改善されにくい事案が増加しています。また、生活の支援に関しても様々な支援を要し、増加する就職希望者・就労定着要支援者に対して支援の幅が多くなっています。

当法人としても、業務量の多さに人員配置増を検討しましたが支援者スキルの向上を考えると単純に支援員を増やすより支援の質の向上を図り、就業センター職員全員で一人一人の支援を行い、多様な障害に対しての支援に対応できるチーム作りを考えています。

①就労支援活動

1. 運営協議会開催
2. 指導者研修会への参加
3. 県下就業・生活支援センターネットワーク研究会参加
4. 特別支援学校連絡会開催
5. ハローワークとの連絡会議開催
6. 各種就労支援制度学習会開催と活用
7. 発達障害者・高次脳機能障害者・難病者への就労・相談支援強化
8. 西牟婁圏域自立支援協議会就労部会活動
9. 職場定着者促進のための在職者の交流活動
10. 職場定着のための訪問支援強化
11. A型事業所との連携による一般就職相談・定着支援

②生活支援活動

1. 医療、保健、福祉、労働、特別支援学校、行政との連携
2. 学習会の開催

- 3. 就労自助グループの育成（ワーカーズクラブ）
- 4. 相談事業所との連携
- 5. 就労型グループホームのバックアップ体制の確立
- 6. 家庭訪問の実施

③個別処遇関係

医療同行、生活相談、就業相談については必要応じて随時行う。

3. 地域交流活動

町内会参加

4. その他の活動

特になし

5. 行事報告

年月	行事等	備考
7月	ワーカーズ BBQ	毎週木曜
10月	ワーカーズ旅行	スポレク
12月	ワーカーズ忘年会	毎月第一火曜 ワーカーズ会議

6. 数値実績

登録者数 213名（内新規46名） 相談・支援件数 5579件
 職場実習・職業準備訓練 82件 就職者数 35名
 定着支援件数 2807件

田辺市地域活動支援センターⅢ型事業「紀南地域活動支援センター」

1. 事業経過

2年目の運営となる26年度については利用者が増となり前年度より活動が増えた状態であった。当初目的であった施設を利用したがない当事者の居場所としての活動については効果があったと考えられる。また、短時間就労者の余暇活動場所としても利用があり、安定就労への効果も見られた。

日中作業は基本的に自由であるが、当事者のニーズより内職作業に取り組む。ルアー削り・缶バッチ制作などを行い、3ヶ月に一度のイベントなどを取り組み、所属感の向上を図った。

2. 職員体制

管理者 1名（兼任）

支援員 1名（専任）

3. 利用の実績

(ア) 月別平均利用者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数	15	17	16	19	19	21
開所日数	21	20	21	22	17	20
平均利用者数	7.0	6.45	7.81	7.82	9.65	7.80

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	18	17	20	19	19	19
開所日数	22	18	19	19	19	22
平均利用者数	7.55	7.72	9.79	10.21	9.52	8.40

(イ) 市町別（3月末）

田辺市	みなべ町	上富田町	すさみ町	白浜町
15人	1人	3人	0人	0人

(ウ) 障害別（3月末）

知的	精神	身体	発達	その他
7人	6人	4人	0人	2人

(エ) 年齢別 (3月末)

~20歳	20代	30代	40代	50代	60代
0人	8人	7人	1人	3人	0人

グループホーム 「サンヒルズ・オレンジ・クローバー・ユースvii」

1. 運営概況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）
サンヒルズを主とし定員20名、職員配置4：1での支援を行ってきた。

2. 事業報告

世話人の配置については夜間の短時間支援と分けて、日中の支援との兼任を行い就業場所への訪問を行った。就業センターより職員の訪問を行い就業定着支援の一環として生活支援・指導も行い早期の問題解決に努めた。

2名の退所者については、和歌山市での新生活（転職・結婚）を目標に退所が1名、自宅での生活を再スタートさせた方が1名となっている。

女性の入居希望者に対しての新設を検討していたが、現在は良物件が少なく次年度の設置に向けて再度物件探しを行っていく。

設立当初より目的であった「地域での生活」については今後等グループホームで経験したことを活かし、単身生活への移行を勧め、当事者のニーズに対応できる体制・支援を検討してきたが移行者は居なかった。

①生活支援活動

生活指導（清掃・服薬・身だしなみ・食事 他）
医療同行（精神科通院同行・その他の医療機関への同行）

②個別処遇関係

就職相談・定着相談・個別の悩みの相談 など

3. 地域交流活動

特に無し（各ホームで町内会への参加はしている）

4. その他の活動

平成27年和歌山国体・大会に向けての当事者参加競技（バスケットなど）での練習会対応。
企業への報告などを行った。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		毎月木曜スポレク 毎月第一火曜日 ワーカーズ会議
5月		
6月		
7月	ワーカーズ BBQ	
8月		
9月		
10月	ワーカーズ旅行	
11月		
12月	ワーカーズ忘年会	
1月		
2月		
3月		

6. 数値実績

ホーム名	サンヒルズ（全体）			
定員	26年4月 20人	27年3月 20人		
実利用者数	26年4月 20人	27年3月 18人		
職員常勤換算配置数	26年4月 5人	27年3月 5人		
年度中の入退所	入 所 退 所	2人 2人		
利用市町村内訳	田辺市	6人		
	白浜町	0人		
	みなべ町	1人		
	上富田町	2人		
	すさみ町	2人		
	その他	7人		

就労継続B型事業所 「古道ヶ丘」

1. 運営概況

- ・保養所事業（田辺市委託事業による宿泊施設維持管理）における夏の繁忙期時の休日を開所し利用者が主体的に宿泊対応に入ることにより利用者工賃のアップをはかった。閑散期は、SST(社会生活技能訓練)やレクリエーションにあて、利用者社会生活向上に力をいれた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

田辺市委託事業

- ・バンガロー清掃（宿泊、前後のセット及び清掃をおこなう）
- ・施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）
- ・ブルーベリー収穫（栽培、収穫）

授産事業

- ・内職作業（箱折り、袋詰め作業など）

② 生活支援活動

- ・年1回の健康診断を実施した。
- ・防災計画に基づき年2回の防災訓練を実施した。
- ・利用者自治会主体で季節ごとのレクリエーションを企画し行った。

③ 個別処遇関係

- ・個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。
- ・SST（社会生活技能訓練）を取り入れ、基本的（礼儀作法など）なものを中心に行った。

3. 地域交流活動

- ・中辺路町小学校4年生のみなさんが来所し、施設見学、歌・楽器の演奏を聞かせてくれた。
- ・中辺路中学校から夏休みのボランティア体験として、施設利用者とともに箱折り作業、バンガロー清掃を行った。
- ・地域の祭り（翔龍祭・ふれあい文化祭など）に参加した。

4. その他の活動

- ・内閣府青少年社会活動コアリーダー育成プログラムより、海外（デンマーク、ドイツギリス）から和歌山県内の福祉施設視察として古道ヶ丘が対応した。施設見学、意見交換などを行った。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見	
5月		
6月	防災訓練	
7月		
8月		
9月	バーベキュー	
10月	おつかれさま会	
11月	一泊旅行、ソフトボール大会、翔龍祭	
12月	クリスマス会、班別レク	
1月	班別レク	
2月	ふれあい文化祭、防災訓練	
3月		

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
定員	26年4月 30人	27年3月 30人
実利用者数	26年4月 34人	27年3月 32人
1日平均利用者数	26年4月 26.7人	27年3月 25.0人
職員常勤換算配置数	26年4月 5.2人	27年3月 5.85人
年間稼働日数	総稼働日数 245日	休日開所日数 7日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	保養所委託事業関係	4,000,550円
	内職作業	362,843円
	アルミ缶・段ボール回収	372,275円
	計	4,735,668円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 15,000円	実績 11,717円

就労継続B型事業所 「本宮くまのこ作業所」

1. 運営概況

- ・近隣バザーなどに積極的に参加し、くまのこ作業所の広報活動に力をいれ、地域交流をはかった。レクリエーションなどは、古道ヶ丘と合同で行い、くまのこ利用者が古道ヶ丘利用者と交流をはかれる機会をつくった。

2. 事業報告

① 就労支援活動

- ・箱折り、茶葉選別、野外作業を中心としつつ、自主製品（アクリルタワシ、ビーズストラップ）に力を入れた。ビーズストラップは、関われるメンバーが少なかった為、分かりやすいように視覚化するなど創意工夫することにより、関われるメンバーが増えた。
- ・今年度からバザー活動に力を入れる為、焼きそばの鉄板機を購入。色んな地域の催しに参加したことにより、前年度より大幅に売り上げがアップした。

② 生活支援活動

- ・年1回の健康診断を実施した。
- ・防災計画に基づき年2回の防災訓練を実施した。
- ・季節ごとのレクリエーションを企画しおこなった。

③ 個別処遇関係

- ・個別アセスメントを行い、支援計画に基づき支援を行った。

3. 地域交流活動

- ・本宮女性会の方達と本宮大社近くの花壇に花植えをおこなった。
- ・本宮グラウンドゴルフ同好会の方達とグラウンドゴルフをおこなった。

4. その他の活動

- ・本宮地域に事業所をアピールするため月1回「くまのこだより」を発行している。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見、調理実習	
5月		
6月	防災訓練、ボーリング大会、スポレク	
7月	世界遺産 10 周年記念バザー	
8月	卓球大会、川遊び	
9月	空の日フェスタ	
10月	古道合同 BBQ、古道歩き	
11月	1泊旅行、翔龍祭、こだま祭り、ソフト大会	
12月	父母の会合同クリスマス会、古道合同クリスマス会 グラウンドゴルフ	
1月	初詣、古道歩き	
2月	健康診断、防災訓練、ふれあい文化祭	
3月	マグロ缶詰体験、調理実習	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
	26年4月	27年3月
定員	10人	10人
実利用者数	14人	11人
1日平均利用者数	10人	9人
職員常勤換算配置数	2.0人	2.86人
年間稼働日数	総稼働日数 255日	休日開所日数 12日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	自販機	796,180
	内職	65,740
	自主製品	17,100
	受託作業	499,000
	計	1,378,020
工賃実績(一人当たり)	当初目標 180円	実績 170円

グループホーム「こどうの家・第2こどうの家」

1. 運営概況

- ・日中作業所が休みの日の生活に目をむけ、余暇支援、生活リズムを整えることに力を注いで支援をおこなった。

2. 事業報告

- ・年間で、8回の休日レクレーションを実施
- ・利用者の健康管理インフルエンザの予防接種を実施（11月）
- ・防災計画に基づく防災訓練（大型地震想定）の実施と備蓄の準備

① 生活支援活動

- ・給食サービスの実施 朝食：火水木金土日曜日 夕食：月火水木金土曜日
株式会社南陽食品との契約を継続し、食事提供をおこなった。
- ・掃除や、洗濯などの日常生活の力を身に着けるための家事援助をおこなった。
- ・休日のレクレーションや買い物などの支援を実施した。
- ・病院への同行支援の実施
紀南こころの医療センターやその他の病院の受診の際、山間部であるため公共交通機関の不便さを鑑み、同行し場合によっては診察の補助をおこなった。
- ・自治会活動の支援
毎月定期的実施し、ホームでの生活について、利用者同士で話し合いの支援をおこなった。

② 個別処遇関係

- ・日々の生活費の使い方などの助言や管理支援をおこなった。
- ・服薬についての助言や管理の支援をおこなった。
- ・個別支援計画の作成に努め、利用者各個人に合った支援と、生活の質の向上を目指した。

3. 地域交流活動

- ・町内会への加入

4. その他の活動

- ・職員の直接処遇技術向上のため、各種研修会への参加

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	動鳴気峡 お花見	
5月	ドライブレク 橋杭岩	
6月	こどうの家 BBQ大会	
7月	扇ヶ浜 イルカ見学	
8月	南部ロイヤルホテル ランチ	
9月		
10月	カラオケ大会	
11月		インフルエンザ予防接種
12月	クリスマスパーティー	
1月		
2月	なべパーティー	
3月		防災訓練

6. 数値実績

ホーム名	こどうの家		第2こどうの家	
	26年4月	27年3月	26年4月	27年3月
定員	5人	5人	6人	6人
実利用者数	26年4月 4人	27年3月 4人	26年4月 3人	27年3月 5人
職員常勤換算配置数	26年4月 人	27年3月 人	26年4月 人	27年3月 人
年度中の入退所	入 所 退 所	1人 1人	入 所 退 所	2人 0人
利用市町村内訳	田辺市	2人	田辺市	3人
	白浜町	1人	白浜町	1人
	みなべ町	1人	みなべ町	人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	人	その他	1人

就労継続B型事業所 「龍の里作業所」

1. 運営概況

平成26年度は公益財団法人JKA（競輪）の補助を受け、手狭であった既存の施設を新築することになった。しかし、具体的な設計に当たり当初の予算を大幅に超えてしまい、法人負担が増大した。

26年10月～27年2月までの建設期間は、前半は従来の施設と西出張所と2か所で利用者の状態によって分けていたが、後半からは行事等を通じて利用者間の交流の機会が増え、二つの場所を作業種別によって使い分けをすることができるようになってきた。2月末には新施設の工事も完成し、3月中に手続きや引っ越しも終え、4月から本格的に稼働ができるよう準備を整えることができた。

2. 事業報告

①就労支援活動

利用者の年齢や課題が多様化する中で、個々の状態に応じた作業を提供できるようアルミ缶回収など作業内容を増やす工夫をしたが、全体としては伸び悩んだ。

下請け作業は供給が不安定で単価も安く、収益を伸ばすことができず、自主製品では「よもぎの葉」や「パン・焼き菓子」において、計画相談等による職員の業務負担が増え、生産量を増やすことができず、顧客の需要を満たすことができなかった。

②生活支援活動

市営住宅への入居支援や社会福祉協議会と協力して権利擁護事業の活用による金銭管理やヘルパー利用などを通じて生活支援を行った。

26年度は41歳以上の利用者に対して、田辺市の特定健診を受診することで、より細かな項目の検査と個々の状態によってがん検診を実施し、定期的な市の健康相談の定着をはかった。

③個別処遇関係

利用者の病状や生活状況を考慮して、交通の便のよい医療機関への転院や、主治医との情報共有を密に行った。

個別支援計画と計画相談に基づき、関係機関と連携しながら、個々の課題について必要な支援を行った。

3. 地域交流活動

毎年恒例の民生委員協議会とのグラウンドゴルフ大会や翔龍祭への参加に加え、南部高校龍神分校の体育祭に初めて参加するなど地域との交流の機会を増やした。

4. その他の活動

文化活動として「龍神温泉美人体操」や「丘の上のひまわり」の合唱などに取り組み、地域のイベント等で発表した。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
26年4月	ハイキング（平草原）	
5月	買い物レク	
6月		
7月		
8月	スポーツレク 大掃除	
9月	敬老会 買い物レク（イオン） 高齢者交流会での舞台発表	
10月	わされん運動会 グラウンドゴルフ大会 龍神分校体育祭 バスツアー（木下大サーカス）	
11月	翔龍祭	
12月	一泊旅行（有馬温泉） 施設見学 忘年会 大掃除	
27年 1月	初詣（闘鶏神社） 餅つき	
2月	健康診断（41歳以上） ふれあい文化祭	
3月	健康診断（40歳以下）	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
	26年4月	27年3月
定員	20人	20人
実利用者数	17人	19人
1日平均利用者数	12.3人	15.6人
職員常勤換算配置数	5人	5人
年間稼働日数	総稼働日数 247日	休日開所日数 6日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	焼き菓子・パンの製造	382,514
	龍神杉のコースター	32,996
	よもぎの葉	80,920
	アクリルタワシ	8,780
	農作業	51,842
	ぞうきん	5,650
	便利屋	123,824
	ねじ袋詰め	227,595
	梅種取り	90,539
	椎茸シール貼り	71,842
	龍神マッシュアップ	96,650
	アルミ缶回収	27,918
	物品販売	131,076
	花いっぱい運動	190,185
	箱おり	5,650
エコクラフトかご他	-14,500	
工賃実績(一人当たり)	当初目標 8,000円	実績 6,388円

就労継続B型事業所 「か〜む」

1. 運営概況

平成26年度における利用者については、新規利用者が11名、退所者は7名であった。毎日通所する事が習慣化された利用者が増えてきた事により、平均利用者数が増加し、月の延利用者数が300名を超える状況になっており、安定した事業所運営の基盤ができてきている。ただ、利用者が増えた事による総作業時間の増加がある一方、授産収益では大きな増加につながってはならず、工賃の時給額については下方修正が必要な状況にあり、授産収益を伸ばしていく必要性に迫られている。

2. 事業報告

①就労支援活動

- ・前年度に比べ授産収益は増加し、利用者への総支給額も増えたが、利用者数の増加分を賄うだけの財源は無く、時間給については減額（160円→140円）する事になった。
- ・梅加工会社より梅干しの種抜き作業を受託し作業選択の機会を提供できるようになった。作業においても失敗の心配が少なく、片手での作業も可能であり、多様な利用者の様態に応じた作業参加が可能となった。
- ・箱折内職や業務委託による給食運搬、アルミ缶回収については継続して実施した。尚、アルミ缶回収の付随業務としてペットボトルの回収も取り入れた。

②生活支援活動

- ・給食盛付や片付け、館内清掃等、生活スキルを身につける取り組みを行なった。
- ・体力維持や体調維持を念頭にウォーキングを定期的に行なった。
- ・年1回の健康診断、年2回の防災訓練を実施した。

③個別処遇関係

- ・個別支援計画に基づいて利用者一人一人の課題に対する支援を行なった。
- ・長期での欠席者に対して訪問支援を行なった。
- ・自力での通所が困難な利用者に対して送迎支援を実施した。

3. 地域交流活動

- ① スポーツレクリエーションとしてキンボールを行ない、田辺市キンボール普及協会より講師の派遣を頂いた。陽だまりとの合同スポレクとしても実施した。
- ② 休日開所による地域行事に積極的に参加した。
- ③ ペットボトル回収により集まったフタを白浜小学校に届け、小学生の取り組みに協力した。

4. その他の活動

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見（平草原）、スポレク	
5月	茶話会、釣り、カラオケ	
6月	釣り、スポレク、防災訓練	
7月	外食、ドライブ（EEパーク）	
8月	買物レク（和歌山イオン）、BBQ（古道ヶ丘）	
9月	空の日フェスタ（白浜空港）	
10月	ドライブ（大島）、スポレク	
11月	上富田町健康祭り、やにこいフェスタ（みなべ町）	
12月	クリスマス会・忘年会	
1月	書初め・雑煮作り、スポレク	
2月	ふれあい文化祭、健康診断、防災訓練	
3月	調理実習、カラオケ	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型			
定員	26年4月	20人	27年3月	20人
実利用者数	26年4月	23人	27年3月	26人
1日平均利用者数	26年4月	10.23人	27年3月	14.95人
職員常勤換算配置数	26年4月	3.6人	27年3月	3.9人
年間稼働日数	総稼働日数	248日	休日開所日数	7日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）		
	内職（箱折・梅干）	375,427円		
	依託作業（配食・洗車）	353,300円		
	アルミ缶回収	79,920円		
	その他	173,065円		
	計	981,712円		
工賃実績（一人当たり）	当初目標	実績		
	4,000円	3,754円		

グループホーム 「ほわいとホーム」

1. 運営概況

平成26年4月時点では定員10名に対して入居者7名であったが、3名の新規入居者を受入れ定員を満たす状況になった。糖尿病や高血圧といった生活習慣病に対する支援や高齢化に伴う体力維持といった、一人一人の暮らしに必要な支援を取り入れながら支援しており、今のところ大きな変調は無く生活できている。

今年度よりバックアップ体制の見直しを図り、ゆうあいホームと分離した事により、ゆうあいホームとの兼務職員がシフトにより入れ替わり入っていた支援体制から、同じ職員が継続してじっくり利用者に関わる事ができるようになった。ただし、当直職員の不足時等においては職員体制が脆弱であり、臨時当直体制を取る必要が生じた。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・生活習慣病の改善、予防の為に定期的なウォーキングの機会を設けた。
- ・受診同行や主治医との意見交換の機会を設け、利用者の状態把握に努めた。
- ・月に1回の調理実習を継続して実施した。利用者主体の取り組みとなっている。
- ・ウイルス感染症等の対応について、ホーム内での感染拡大を防ぐための取り組みを徹底した。

② 個別処遇関係

- ・個別支援計画に基づき、金銭管理、服薬管理、衛生管理（居室整理・布団干し・入浴習慣等）、健康管理において、個々の状況に応じて必要な範囲で支援を行なった。

3. 地域交流活動

- ① 町内会に加盟。町内会清掃活動に参加した。
- ② アルミ缶回収を通じて地域住民との交流の機会が持てた。

4. その他の活動

- ・自治会を継続して実施。自治会の意見をホームの活動にも反映させた。一泊旅行については、自治会の意見から今年度はホームとして実施せず、日帰りレクを数回取り入れる事とした。
- ・保護者懇談会を実施した。
- ・防災訓練を実施し災害に備えると共に、救急救命講習を利用者にも受講してもらい、緊急時に相互に助け合える術を学ぶ機会を設けた。また、災害時用の備蓄品の準備を行なった。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		消防設備点検
5月		
6月		
7月		
8月	防災訓練	
9月	買物支援、空の日フェスタ	
10月		消防設備点検
11月	バーベキュー（古道ヶ丘）	
12月	忘年会	
1月	保護者懇談会、救急救命講習	
2月	防災訓練	
3月		

1. 定例行事…自治会、調理実習、館内清掃

6. 数値実績

ホーム名	ほわいとホーム			
定員	26年4月 10人		27年3月 10人	
実利用者数	26年4月 7人 男性：3人 女性：4人 平均年齢：49歳		27年3月 10人 男性：4人 女性：6人 平均年齢：46歳	
職員常勤換算配置数	26年4月 2.8人		27年3月 3.7人	
年度中の入退所	入 所 退 所		3人 0人	
利用市町村内訳	田辺市	3人	串本町	1人
	白浜町	1人	美浜町	1人
	上富田町	1人	和歌山市	1人
	すさみ町	1人	紀宝町	1人

就労移行・就労継続B型事業所 「すまいる」

1. 運営概況

すまいるは、多機能運営（就労移行支援・就労継続支援B型）の取り組みを継続して行い、精神、知的、身体、発達障害者、難病の方の社会復帰及び自立を目指し、安定した日常生活、社会生活が営む事が出来るよう個々のサービス提供を行った。授産活動では、施設内作業の仕事が、年々減っていく状況に対応出来ず、利用者の工賃が、安定しない状況に至ってしまった。平成18年より目標工賃倍増計画を視野に入れ授産活動を模索し、平成24年度より自主製品販売で収入を確保する取り組みを始め少しずつ起動し始めている。この取り組みを行政、地域の方と協議し、地域密着でみなべ町障害者の就労訓練施設として店舗販売する新作業棟（ぼのぼの工房）の設置に至った。今後は、みなべ町3つの福祉施設との交流を深めながら共同で利用者工賃の取り組みの活性化を図りたい。

2. 事業報告

① 就労支援活動

「就労移行支援」

- ・施設内訓練－今年度は、少人数制での就労訓練を主に社会体験していない利用者を対象に取り組んだ。内容は、「その場にふさわしい言動、行動、表情を身に付ける。」を趣旨に、職場マナー講座を月2回行い、挨拶、敬語の使い方等、コミュニケーション方法の反復指導を行った。利用者の中には、施設内では取り組めるが、実習先や他施設になると、環境の変化、不安、緊張もあり施設外で取り組めない事が、多々あった。今後の課題ではあるが、継続してSST講座、施設外実習を行い、違う環境に慣れていく機会を、個々の様子を見ながら増やしていきたい。
- ・施設外訓練－すまいるの受託作業(3事業所)、センターとの連携実習(5事業所)に対象者9名が取り組み、月1回就業・生活支援センターとケース会議を行い、個々の課題、方向性を共有し就労に繋げる支援に取り組んだ。
今年度の就職予定者は、3名であったが、当事者のニーズや職種のマッチングを考慮した結果2名の就職者となった。
- ・グループホーム体験－日高町から就労希望で通所している利用者2名は、将来的に西牟婁圏内で就労を考えている話等もあり、GH体験を3カ所で行った。
初めてのGH体験な為、本人達も不安は多くあったと思うが、何回か将来的に自立していく為の体験が出来たと思う。体験した1人は、GHに入所し、就労にも繋がった。

「就労継続支援B型」

- ・施設内訓練－作業内容は、包装作業、箱折、シール貼り、パソコン入力作業がある。
包装作業は、1日立ち作業で、作業工程も多くあり集中力、正確性とスピード、同じ作業をする利用者とのコミュニケーション能力等を日々観察する事が出来る。
就労を目指す利用者には実践的な作業な為、自分の問題点等振り返り、自分の課題に取り組んでもらい、仕事する意識向上、就労意欲向上に繋がる事が出来た。

また、利用者も少しずつ増え始め作業環境の整備を図り、1階に少人数で作業が出来る作業ペースを作り、作業ペース、集中力の観察を行った。

大人数で作業していた時に比べ、刺激等も少なく集中して作業に取り組んでいる。

- ・施設外施設－就労訓練事業と同じに、すまいる受託作業（3事業所）、センターとの連携実習（5事業所）に、対象者15名が取り組み、月1回就業・生活支援センターとケース会議を行い、個々の課題、方向性を共有し就労に繋げる支援に取り組んだ。毎年の就職予定者は、1名で就労支援に取り組んでおり、今年度も短時間就労から1日就労に繋げる事が出来た。

②生活支援活動

「自立訓練」(身だしなみ・掃除・給食活動等)

- ・身だしなみ－歯磨き、洗髪、着替えが出来ていない場合は、声かけし取り組んでもらい、出来ない場合は、すまいるの生活訓練として取り組んでもらった。
家族にも連絡帳のやりとり等で情報共有し、共通支援する事で身だしなみ面は、利用者も自分自身で気にかける事が出来るようになってきた。
- ・掃除－毎日当番制で取り組んでもらい、掃除道具の使い方、掃除の仕方を身に付ける訓練に取り組み、身に付いてきたら施設外実習に参加し、実践での取り組みにも参加してもらった。
- ・給食当番－昼食の配膳準備、食器洗い、ゴミ片付を2人1組で取り組んでもらっている。双方で声かけを行い出来ない際は、職員が間に入り指示出しして取り組んでもらった。
- ・調理実習－一年3回程度予定していたが、年2回の取り組みを行い、みんなで調理する楽しさ、みんなでご飯を食べる体験を行った。生活支援活動の中で楽しみにしている利用者は、多い。

「健康管理」

- ・健康診断－通所者は、年1回健康診断を受けてもらい病気の早期発見、早期治療に努めた。
健診後の結果、糖尿病の疑いがある利用者が年々増えてきている。運動を兼ねて公園清掃作業に参加し、年2回スポーツレクレーションを行い、健康管理の安定を図る意識付けを図った。
- ・受診同行－利用者の体調面の観察を行い、気になる利用者は、声かけを行い定期受診の際、受診同行し主治医と情報交換等を行い、精神面の安定に繋がる支援に取り組んだ。利用者のうち、入院し長期休養している利用者、通院しながら在宅生活している利用者もいる為、訪問活動で情報収集を行い、関係機関との連携を取りながら見守り支援を行っている。

③個別処遇関係

個々に個別支援計画を作成し、定期的に利用者との振り返りを行い、ステップアップに繋がる支援に取り組んだ。利用者全員に共通して取り組んだ支援は、安定した通所を目標に、生活支援に重点をおいた。また、行動障害がある利用者には、日常支援の中で虐待に繋がる支援をしていないか、日々職員会議で虐待防止の振り返りを行い、利用者の人権を守る支援に努めた。

3. 地域交流活動

- ・目津・小目津清掃作業
- ・古着回収
- ・集団防災訓練
- ・バザー参加活動
- ・上南部中学校、南部高校体験実習受け入れ
- ・スポーツ交流会

4. その他の活動

「相談事業」

平成 24 年 4 月より特定相談事業所として計画相談事業所として障害者の相談事業に取り組んでいる。新規での相談者は、平成 24 年度 継続 26 名、平成 25 年度 新規 15 名 継続 24 名、平成 26 年度 新規 13 名 継続 36 名 の計画相談を行った。

事業開始当初は、新規相談者が増え計画作成出来るか不安も多くあったが、行政、他計画相談事業所と調整等を行い整理しながら取り組む事が出来た。相談内容で一番多いのは、福祉サービスの更更新手続きが多く、次に経済面での不安、健康面の相談、就労出来る場所はないか等であった。計画相談事業での課題は、計画相談事業所が生活支援全般を担う役割と思う事業所もあり、相談者の生活支援の調整に苦慮する事が多かった。

今後は、他計画相談事業所と意見交換しながら、課題を検討していきたい。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4 月	花見 (和歌山城)・ショッピング (イオンモール)	
5 月	ボーリング (ジストボール)・スポレク (上富田グラウンド)	
6 月	野球観戦 (京セラドーム)	
7 月		
8 月	B B Q (南部花火祭)・避難訓練	
9 月	ハンバーグ調理実習 (みなべ第二庁舎 調理室)	
10 月		
1 1 月	すまいる旅行 (那智勝浦)	
1 2 月	スポレク (はあと館)	
1 月	初詣・戎祭 (須賀神社)・カレーライス調理実習 (すまいる)	
2 月	豆まき・観梅 (みなべ梅林)	
3 月	避難訓練 (起震車体験)・お別れ会 (ぼのぼの工房)	

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	26年4月	27年3月	26年4月	27年3月
定員	8人	8人	20人	20人
実利用者数	9人	6人	25人	30人
1日平均利用者数	7.1人	6.3人	18.2人	20.8人
職員常勤換算配置数	3人	3人	3人	4人
年間稼働日数	総稼働日数 252日	休日開所日数 28日	総稼働日数 248日	休日開所日数 28日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
	自主製品収入	570,620	自主製品収入	2,282,482
	売上収入	433,904	売上収入	1,735,617
	受託作業収入	340,844	受託作業収入	1,363,374
	計	1,345,368	計	5,381,473
工賃実績(一人当たり)	当初目標 25,000円	実績 21,369円	当初目標 15,000円	実績 16,218円

グループホーム 「みなべ鹿島ホーム・サンフラワー・浜市」

1. 運営概況

平成18年2月よりみなべ町で、大規模住居としてみなべ鹿島ホームの運営を開始。その後、田辺で運営していた女子GHサンフラワーを、みなべ町に移転し、エリア指定でのGH運営を8年8ヵ月行ってきた。

双方の建物が、老朽化してきていた為、まずは、平成26年9月にみなべ鹿島ホームの移転を行った。今まで大規模住居としての運営を行ってきたが、入居者の将来の方向性を、入居者、家族も含め個々に行い、単身生活者、他GHへの転居等の調整を行った結果、今現在、みなべ鹿島ホーム3名、サンフラワー4名、浜市1名の合計8名での運営を行っている。

みなべ鹿島ホームは、大規模住居から一軒家に移転し、9ヵ月が過ぎ、入居者も移転した住居に慣れ少数で、アットホームな生活の安定が図れている。また、今年度は、新しくサテライト住居でのGH運営を始め、単身生活に向けた体験に取り組んでいる。単身生活支援もGH運営では始めてな為、四苦八苦しながら取り組んでいる状況である。

来年度は、サンフラワーの移転先の方向性を検討していきたい。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・平日の朝食、夕食提供—毎月の自治会で入居者よりリクエストメニューを聞き、献立に入れ、手伝い等も積極的に取り組んでくれている。入居者の何人かは、昼食の弁当作りも励むようになった。梅雨時期等は、食事提供の食材の保管、調理後の保管、入居者の食材保管等に気を付け食中毒予防に努めた。
- ・健康管理—就労先、施設等で健康診断を受け健康診断結果の確認を、入居者と一緒に行い、自分の気になる健康面の問題は、相談にのり受診の促し、必要な際は、受診同行を行い健康管理の安定に繋がる支援を行った。
肥満傾向の入居者は、夕食後の散歩等で、体重管理の動機つけを図った。
冬前は、インフルエンザ予防の為、入居者全員予防接種を受けてもらい集団感染予防に取り組み、1年間入居者全員大きな病気もなく、健康に過ごす事が出来た。
- ・GH掃除、自室の掃除—定期的な掃除チェックを行い、片付等がわからない場合は、一緒に取り組み整理整頓し衛生面への意識向上の取り組みを行った事で、毎月、自治会の際に、入居者から掃除当番、掃除方法等の話題が意見として出てくるようになった。長期休暇の際も入居者同士で掃除当番を交替しながら清潔に保つよう心がけてくれた。
- ・金銭管理—入居者全員の見守り支援を行い、相談として多かったのは、お小遣いの金額と使い方。お小遣いの希望額を、本人と話し合い金額設定し取り組んだ。
定期的にお小遣い帳を確認しながら、本人と振り返りを行い、世話人がお金を管理するのではなく、自分のお金は、自分で管理する意識付けを図り、少しずつ意識付けが出来てきている様子も伺える。
- ・買い物—1人で買い物に行く不安がある利用者は、世話人と一緒に行き買いたい物が、自分で選べるようになり、予算内で計算しながら買い物する事も、少しずつ出来るようにな

った。

②個別処遇関係

個々に個別支援計画を作成し、定期的に入居者との振り返りを行い、自立生活の安定に繋がる支援を、本人の意向を聞きながら取り組んだ。

今年度は、みなべ鹿島ホーム移転に伴い、みなべ鹿島ホーム入居者の、今後の方向性を確認し、単身生活希望の2名は、みなべ町での単身生活に移行した。その後も、就業・生活支援センターと連携しながら、就労訪問、生活相談を継続して安定している。

今現在の入居者も同じように、単身生活希望がある為、今後の方向性を見ながら検討していきたい。

3. 地域交流活動

- ・溝掃除
- ・集団防災訓練
- ・バザー参加

4. その他の活動

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	買い物（田辺）・親子丼調理実習（鹿島ホーム）	自治会
5月	買い物（田辺）	自治会（レク関係）
6月	買い物（田辺）・野球観戦（京セラドーム）	自治会
7月		自治会
8月	みなべ花火祭（みなべ鹿島ホーム）・引っ越し	
9月	みなべ鹿島ホーム移転	自治会
10月		自治会
11月		自治会（旅行関係）
12月	旅行（龍神温泉 季楽里）	自治会
1月		自治会
2月	避難訓練(埴田・谷口)	
3月	お別れ会	自治会（役員改選）

6. 数値実績

ホーム名	鹿島ホーム		サンフラワー	
定員	26年4月 8人	27年3月 4人	26年4月 4人	27年3月 4人
実利用者数	26年4月 8人	27年3月 4人(浜市含)	26年4月 4人	27年3月 4人
職員常勤換算配置数	26年4月 2人	27年3月 2人	26年4月 2人	27年3月 2人
年度中の入退所	入 所 退 所	人 4人	入 所 退 所	人 人
利用市町村内訳	田辺市	2人	田辺市	2人
	白浜町	1人	白浜町	人
	みなべ町	1人	みなべ町	人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	1人
	その他	4人	その他	1人

就労継続B型事業所 「いなづみ作業所」

1. 運営概況

一人ながら、一般就労に結びついた利用者を出せた事が大変喜ばしい。

反対に、自宅での孤独死も一名出てしまった事が残念でならない。

また、高齢や労働意欲の喪失から退所された方も四名出た。

一方、新しく利用が始まった方は一名のみで、結果として登録者が六名減る事になり、来年度の給付費収入の減額が心配である。

同時に、就労支援事業における人手不足の問題も出てきている。

2. 事業報告

① 就労支援活動

前年度 495 万円に対し、52 万円増の 547 万円を売り上げた。

草刈り・洗車・バザー売上が好調だった。(参考資料)

屋内での作業が少ないので、高齢者でも出来る屋内作業を模索してきたが、今のところ作業開拓までには至っていない。

② 生活支援活動

週に一度、買物に同行し、購入物の確認や支払い時の補助をしている。

身だしなみや体臭を注意し、本人への声掛けを続けながら、自宅で入浴が可能かどうかの確認も行った。

③ 個別処遇関係

一人暮らしの利用者が多い為、必要に応じて家庭訪問を行い、主に衛生面を確認した。

また、困っている事等が発生した時は、社協と協力をして、問題の解決を図った。

金銭管理については、社協の権利擁護事業と併用して、いなづみ作業所でも預り金による管理をし、月末の資金ショートを起こさないよう支援した。

3. 地域交流活動

月に一度、レクリエーションを通して事業所外の人との交流を深めつつ、町外での買い物や食事の仕方について体験をしながら学んでもらった。

4. その他の活動

年に 2 回の防災訓練を行い、様々なシーンでの防災意識を高め、単身でも身を守る方法を一緒に考えている。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見・日置バザー出店	
5月	イノブタダービー バザー出店	
6月	潮岬・ピザ作り体験	
7月	流しそうめん大会	
8月	バリアフリーまつりバザー出店	
9月	防火訓練 優悦館レク	
10月	大阪・神戸 一泊旅行	
11月	町民運動会バザー出店 わされんソフボール大会	
12月	愛のなんでも市 バザー出店 忘年会	
1月	初詣	
2月	観梅	
3月	いきいきふれ愛まつり バザー出店	

6. 数値実績

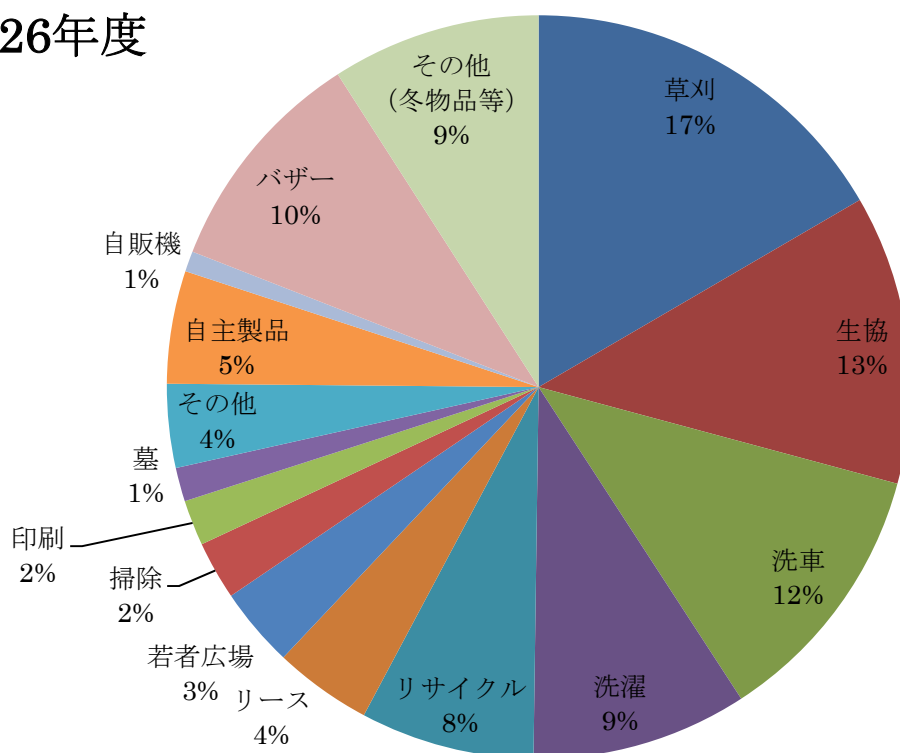
事業種別	就労継続支援B型			
	26年4月	27年3月		
定員	20人	20人		
実利用者数	27人	23人		
1日平均利用者数	19人	17.3人		
職員常勤換算配置数	4.7人	4.7人		
年間稼働日数	総稼働日数 248日	休日開所日数 8日		
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)		
	受託	4,111,957		
	自主製品	268,287		
	バザー等	1,092,055		
	計	5,472,299		
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 443円(時) 15,092円(月)	実績 445円(時) 15,786円(月)		

<参考資料>

いなづみ作業所 就労支援事業収入推移表

作業内容		26年度	25年度	24年度
受託 (便利屋)	草刈	908,752	780,400	645,000
	生協	688,325	619,857	627,308
	洗車	636,980	453,000	289,900
	洗濯	514,000	490,000	579,500
	リサイクル	414,110	384,180	226,210
	リース	233,000	567,000	501,000
	若者広場	190,000	120,000	120,000
	掃除	139,000	64,080	236,105
	印刷	108,140	186,075	143,300
	墓	80,600	82,900	86,400
	その他	199,050	64,342	240,260
	小計	4,111,957	3,811,834	3,694,983
自主製品 売上	268,287	236,062	214,570	
販売	自販機	48,562	54,373	66,205
	バザー	546,280	401,605	400,680
	その他(冬物品等)	497,213	447,270	384,330
	小計	1,092,055	903,248	851,215
合計		5,472,299	4,951,144	4,760,768

26年度



グループホーム「南紀の台ホーム」

1. 運営概況

みなべ鹿島ホームの老朽化と勤務地の利便性からみなべ鹿島ホームから2名、ユースⅦから1名、こどうの家から1名が転居して、合計4名で6月1日より南紀の台ホームを開所した。7月に1名、9月に2名を受け入れ満床となった。職員体制は2名体制（常勤換算1.4名）で、やおき工房がバックアップした。

利用者の日中活動としては、一般就労が2名、A型事業所が2名、やおき工房3名の内2名が就労移行、1名がB型となっている。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・平日の朝食・夕食の給食サービスを提供した。
- ・毎週（土）には館内清掃を行い、共有スペースの清掃を利用者が協力しながらできるように支援した。
- ・トイレ掃除やフロの準備・掃除等については利用者持ち回りでかかわれるように支援した。
- ・自治会活動をサポートし、利用者同士で話し合い解決できるよう支援した。また、自治会主体で行事等の企画実施ができるように支援した。
- ・防災訓練（11/27）を実施し、上富田消防署に指導頂き防災意識の向上に努めた。
- ・やおき工房がバックアップを行い、毎週（水）の夜間や長期の休み等（ゴールデンウィークや盆休み・正月休み）は日直の支援を行った。

②個別処遇関係

- ・支援計画を作成し、関係機関や家族等と連携しながら必要な支援を行った。
- ・必要に応じて金銭管理を行い、適切に管理できるよう支援した。
- ・必要に応じて服薬管理や受診同行等の支援を行い健康面に配慮した。
- ・必要に応じて買い物同行支援を行い、必要な買い物ができるように支援した。
- ・必要に応じて手続きの同行等を行い支援した。
- ・衛生面の保持が難しい利用者には、定期的に洗濯や掃除等の家事援助を行った。
- ・肥満傾向のある利用者には平日夕方のグループでの散歩を励行した。

3. 地域交流活動

- ・南紀の台町内会に賛助会員として加盟した。町内会の一員としての活動は不十分であった。H27年度は地域住民との交流を深め、南紀の台に馴染んでいけるようにしていきたい。

4. その他の活動

- ・家族同士が相互交流を図れる機会を持てなかった。次年度はその点の取り組みも考えていきたい。（保護者懇談会、食事会等）

- ・ 職員の研鑽のため、各種研修会に参加した。（法人内研修、法人内新人職員研修等）
- ・ 利用者それぞれにおいて、原付免許の取得に成功したり、口熊野マラソンのハーフマラソンを完走したり、B型からA型へのステップアップ、障害者スポーツ大会の選抜メンバーに選ばれる等、色々と成長の伺える出来事もあった。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		
5月		
6月		
7月	自治会	
8月	自治会、誕生会	
9月	自治会、	
10月	自治会、食事会（スシロー）	
11月	自治会、誕生会、防災訓練	
12月	自治会、クリスマス会	
1月	自治会、誕生会	
2月	自治会、新年会&ボウリング大会&食事会（お好み焼き あや）	
3月	自治会、年度末食事会（いたろう）	

6. 数値実績

ホーム名	南紀の台ホーム	
	26年6月	27年3月
定員（男性）	7人	7人
実利用者数	4人	7人
職員常勤換算配置数	26年4月 1.4人	27年3月 1.4人
年度中の入退所	入 所 退 所	7人 0人
利用市町村内訳	田辺市	1人
	白浜町	1人
	みなべ町	1人
	上富田町	2人
	すさみ町	1人
	古座川町	1人